

令和 5 年度大牟田市文化芸術振興審議会第 3 回会議

日時	令和 5 年 10 月 12 日（木） 15：00～16：05
場所	大牟田市役所北別館第 4 委員会室（4 階）
次第	（議題） 1 大牟田市文化芸術振興プラン(第 3 期)の素案に対する市民意見募集について(中間報告) 2 大牟田市文化芸術振興プラン(第 3 期)の素案の修正について 3 大牟田市文化芸術振興審議会からの答申内容案について 4 その他
出席者	（審議会員） 日下部委員、野中委員、木村委員、梶原委員、右田委員、香山委員、北島委員、 （事務局） 徳川課長、龍主査（生涯学習課）
欠席者	（審議会員） 甲斐田委員、深浦委員、猿渡委員 （事務局） 坂井市民協働部長

（議題）

1 大牟田市文化芸術振興プラン(第 3 期)の素案に対する市民意見募集について(中間報告)

（事務局）資料 1 に沿って説明

（委員）

市民意見は現在 0 件とのことだが、次回の審議会で最終報告いただく際に意見提出があった場合は提出方法を一緒に教えてほしい。どのような形で提出されたかを知りたい。

（事務局）

次回審議会では、提出方法もあわせて報告を行う。

（事務局）

資料 1 の 4(2) NPO 法人大牟田市障害者協議会役員等に対する意見聴取について、本日、NPO 法人大牟田市障害者協議会の事務局長と障害のある人の文化芸術に対する取組み状況や望ましい施策等について 30 分程度意見交換を行ったので報告する。

まず、素案については、第 2 期プランよりも障害のある方の文化芸術活動の推進等について踏み込んだ形で示されてあることに対して非常に高く評価をしていただいた。

そのうえで、事務局長からは、次のような意見・要望があった。

- ①障害のある方で文化芸術の活動にすごく興味を持ってある方や実際に活動している人は多くいらっしゃるが、発表する機会が中々なく、機会があっても支援が必要になることが多い。ぜひ発表の機会の拡充・支援をお願いしたい。
- ②自ら作った作品の展示や活動の披露など、市民に広くお知らせすることによって、その人のウィルビーイング（心身と社会的な健康）や今後の文化芸術活動のモチベーション向上にも繋がるとともに、新たな才能や感性の気づきが生まれる機会が得られるのではないかな。
- ③特別支援学校においては、文化祭等で作品の展示を行っているが見ていただくのは一部の地域に限られている。もっと広く市民に鑑賞してもらいたい。
- ④障害の有無に関係なく、一緒に交流したり、何かを共同で創作したりするような機会があるとよい。
- ⑤オリンピック・パラリンピックは非常に盛んだが、文化のそういった総合的な世界大会というのはあまりない。もっと文化の大会についてPRできるような取り組みが今後できればと思う。
- ⑥令和6年4月に完成する総合体育館のオープンに伴い、手鎌の障害者等文化体育施設「サンアビリティーズおおむた」は閉館となる。総合体育館では、障害のある方のスポーツの振興という取り組みが今後行われる予定であるが、文化芸術活動の披露の機会というのも設けてもらいたい。

2 大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)の素案の修正について

(事務局) 資料 2-1、2-2に沿って説明

(委員)

資料 2-2 の 12 ページの「3.大牟田市の主な文化芸術団体の規模」について、内容が分野別で示されているので、表題も「3.大牟田市の主な文化芸術団体の分野別の規模」などの表現にした方がよいのでは。

(事務局)

内容にあわせて修正を行う。

(委員)

資料 2-2 の 10 ページの (2) 大牟田市三池カルタ・歴史資料館等複合施設「カルタックスおおむた」について、カルタ資料 12,000 点とあるが、現在は 13,000 点。毎年大体 100 点ずつぐらい増えている。

(事務局)

13,000 点に修正する。

3 大牟田市文化芸術振興審議会からの答申内容案について

(事務局) 資料 3に沿って説明

(委員)

答申内容案(資料 3)は、障害のある方の文化芸術の振興について取組みを求める旨の記載があるが、プラン(資料 2-2)の 43 ページの重点的に取り組む基本目標の 4「文化芸術活動をささえる」に障害のある方についての記載が出てこない。障害のある方の文化芸術の振興の取組みが含まれていると思うので何かしら記載した方がよいのでは。

(事務局)

ご指摘のとおり、答申内容案の中には、障害のある方の文化芸術の振興を強化することを要望する旨の記載があるが、プランの素案においては、施策としては挙がっているがプランの推進に当たっての文章の中にその旨のフレーズが入っていない。次回の審議会時に、今回のご意見を踏まえてフレーズを盛り込んだものをご提示させていただきたい。

(委員)

答申内容案の構図で示されている価値連鎖(バリューチェーン)の考え方は、プランの素案の中では具体的にどこに当たるのか。

(事務局)

プラン(資料 2-2)の 5 ページ「2、大牟田市まちづくり総合プランとの関係」の部分に図で示しているとおおり、第 3 期の文化芸術振興プランを活用して他の分野である観光、産業、福祉、教育、まちづくりで活かしていくこととしている。

また、45 ページの「(7) 行政」の部分に、「観光・産業・福祉・教育・まちづくりなどの関係分野を所掌する部局間と十分な連携を図りながら」という記載をしている。この第 3 期プランが完成後は、各施策に基づいた各事業を行っていくこととなるが、この価値連鎖の考え方に基づいて事業を進めていく。

例えば、福祉課の障害福祉担当においては、障害のある方のスポーツや文化芸術の振興に現在すでに取り組んでいるが、生涯学習課と連携して一緒に何かをやるということまで至っていない。来年度以降は、部署を越えて連携した取組みをやっていきたいと考えている。そのほか、まちづくりや観光の部分では、例えば産業経済部が取り組んでいるにぎわいの創出の中で、身近な場所・空間において文化芸術に触れる機会を作っていくことなどができたらと考えている。

(委員)

価値連鎖という言葉が今回初めて知ったが、すごく先進的な考え方だと思う。このプランの中でも、こういった言葉や概念をもう少し付け加えた方がいいのでは。

(事務局)

確かに、プランの中には価値連鎖の表現を反映していないため、事務局で検討したい。もし入れるとするなら、第1章に表記することになると思われる。

(委員)

プラン(資料2-2)の44ページの(4)学校の役割については、自分自身が教員の立場として非常に重く見ている。子どもたちの想像力、表現力、コミュニケーション能力を育むためには、幼い頃から文化に親しむ体験が非常に大事だと思っている。

そのためには、教育委員会との連携が不可欠。カリキュラムの中にいれていくべきと思うが、教務の先生の協力が必要。次年度の教育課程が大体冬休みぐらいには決まるので、その前の段階で会議や校長会等で要望していかないとなかなか実現が難しい。

(事務局)

子どもたちが文化芸術に触れる機会を作るためには、仰るとおり学校・教育委員会の協力がなければ先に進まない。このプランの素案の策定にあたっては教育委員会指導室からもご意見をいただいているが、学校側との密な連携というのがより一層必要となってくる。

今回、答申内容案(資料3)の5ページ「2.文化芸術で未来をはぐくむ取組みと文化芸術活動をささえる取組みについて」の内容として、基本目標1(文化芸術で未来をはぐくむ)については、学校との連携による取組みを拡充されたい、と記載している。学校との連携は今までもやっているが、なお一層拡充してもらいたいということで、あえてこの答申内容案の中に盛り込んだ。

4 その他

(事務局)

次回の第4回審議会がプランに関する審議は最後となる予定。現在実施中の市民意見の最終的な報告と反映についての審議や答申内容について再度審議し確定させたい。

なお、日程は、11月22日(水)13時30分からを予定している。会議資料の送付とともに改めて案内を行う。